

## 令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	15	学校名	身延高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	148	名
スクールポリシー (学力に関するもの)		自主的創造的な学習態度を育てる						
グラデュエーション ポリシー		①夢や希望と高い志を持ち、自主的・主体的に学習に取り組む態度 ②心身ともにたくましく、しなやかな心と豊かな人間性 ③公共心と規範意識を高め、自律的に生活する態度 ④自己表現力を養うとともに、他に寛容で他と協働する態度 ⑤身延高校生としての自覚と誇りを持ち、地域社会に貢献できる力						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
□	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
□	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
□	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
□	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
□	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組
○	個別最適な学びの継続 ～指導の個別化と基礎力向上～

具体的な取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力診断テスト・進研模試の結果分析</li> <li>・Classiによる学習時間の管理</li> <li>・リメディアル教育(国語、数学、英語)の実施</li> <li>・放課後・通学時間などにおけるClassiを活用した学習の推進</li> <li>・学習指導における効果的なICT機器の活用</li> </ul>

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
<b>(各校の授業アンケートに基づく)</b>		
1. 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	86.0%	89.0%
2. 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	78.0%	89.0%
3. 授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	58.0%	63.0%
4. 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	59.0%	65.0%
5. 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	67.0%	80.0%
6. 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	75.0%	77.0%
7. 授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	87.0%	88.0%
8. 他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	89.0%	90.0%
9. 学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	59.0%	65.0%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)
<p>アンケート結果からは、すべての項目で中間から高評価が増えた。授業内において、発表等を通し自己の考えを深めることを効果的に行なった成果と考えられる。また、基礎学力診断テストの結果からは、全体的に成績が向上した。とりわけ成績下位層の学力向上が顕著であった。これは今年度から組織的に始めたリメディアル教育の効果と考えられる。しかし、授業や単元において、始まりに目標を確認することや終わりに目標の達成度を自己評価することが、学習の理解を見直し次の学習につなげるの3項目は60%台であった。スクールポリシーである「自主的創造的な学習態度を育てる」のもと、今年度は、「個別最適な学びの継続 ～指導の個別化と基礎力向上～」をテーマに取り組んだが、目標を意識させ達成度を評価することや、次の学びにつなげさせる意識づけが不足していた。主体的な学習や個別最適な学びの実現には、目標設定や自己評価は欠かせない要素である。次年度は、各教科において単元の目標の意識づけと目標の達成度の自己評価に取り組んでいく。</p>

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	文法や表記の仕方を理解するとともに、語彙を豊かにする。	3.9	4.2	漢字や語彙、文法など基礎学力を定着させようとして、文脈を踏まえた読解力を身に付けさせる。さらに、様々な文章を通して理解を深め、場面や目的に応じて適切に使えるようにさせたい。
	文章を正確に読み取ったり、自分の考えを目的や場面に応じて表現したりする。	3.9	4.2	インターネットの情報に頼るのではなく、根拠を踏まえたうえで自分の言葉で表現できる力を養う。さらに情報の取捨選択や他者との対話を通して、自己の考えをわかりやすく伝える方法を身に付けさせたい。
	興味関心を持って自主的に学習し、自分のもの見方・考え方を広げ深めようとする。	3.9	4.2	教科書の文章が自分や他人とどのように関わりがあるのかを気付かせ、他人の考えを理解し自分の考えを深めさせる。さらに、他者との交流によって社会と積極的に関わるようとする態度を育成したい。
地公	歴史的事象や社会的な事象を理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる情報編集力を身に付けている。	3.8	3.9	調査や諸資料など、様々な情報を取捨選択し編集する能力を伸ばしたい。また、日本及び世界の歴史についての理解を深め、まとめたり発表する技能を身に付けさせたい。
	多面的・多角的な視点で歴史や社会に関わる事象を考察し、課題解決に向けて考察や構想したことを説明したり、議論したりする力を身に付けている。	3.8	3.8	歴史的事象のより深い考察を促すために、現実起こった事象を紹介するなどして、グループワーク等を通して他者の意見を聞いたり自己の意見を発表する機会を増やしていきたい。
	身近な問題を基盤に、地球規模の問題まで、課題を主体的に解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚や他の文化を尊重する態度を身に付けている。	3.8	3.9	日本や世界の歴史にかかわる諸事象について、深く考察し表現する力を身に付けさせたい。課題解決に向けて主体的に取組み、国際社会の一員であるという自覚を促したい。
数学	高校数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することができる。基本的な知識・技能を身に付けている。	4	4.3	義務教育段階までの基礎的な学力を定着状況を把握し、不十分な部分を補うために、リメディアル教材を活用し、年度当初に集中的に取り組む。
	学んだことを活用して事象を論理的に考察でき、事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	4	4.2	基礎的な問題と応用的な問題のバランスを考慮しつつ、解法をより深く考察できるように、授業内で個別にフォローしていく。
	数学を学ぶことに興味を持ち、粘り強く数学的論拠に基づいて判断でき、考察を深めながら、評価・改善しようとする力を身に付けている。	4	4.3	グループワークなども活用しながら、定理や公式などの導出についてもより深く考えさせることで、数学的論拠の大切さや有用性について意識させる授業を展開する。
理科	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	3.7	4.1	実験器具の扱い、測定の基本、安全指導など、中学校の習得状況に差があるので支援し、技能を向上させたい。実験の際はティームティーチングで習得不足の生徒へのフォローを厚くする。
	観察、実験を行い、人間生活と関連付けて科学的に探究し、論理的に表現する力を身に付けている。	3.7	4.1	取り組みやすい単元から探究的な実験・観察を導入する。また、結果の比較や因果関係を考える場面を意図的に設定し、得られたデータを基に自分の考えをまとめて説明する活動を実施する。
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を身に付けている。	3.6	4.1	日常の素材や身近な現象を扱った実験を行い、生徒が理科を自分ごととして捉えられるようにする。また、結果の予想や簡単な考察を共有する活動を取り入れ、自ら進んで考える姿勢を育てる。
英語	基本的な語いや表現等について、正しく理解し、活用することができる。	3.8	4.1	基礎回復のためリメディアル教材と小テストを継続活用し、ジャーナルライティングで自力記述を促して理解と活用力を高める。
	日常的な話題、社会的な話題について、さまざまな情報や考えなどを英語で理解したり、これらを活用して適切に自分の意見を表現し伝え合うことができる。	3.8	4	反転学習で発話量と授業内のフィードバックを充実させ、話題調査や背景知識の蓄積、表現の型習得で理解と発信力を伸ばす。
	主体的、自律的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとすることができる。	3.9	4	相互的なやり取りを重視した評価基準を提示し発話姿勢の涵養を図るとともに、交流を促進する題材設定により主体的なコミュニケーション能力の育成を推進する。
芸術	創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表すことができる。	3.9	4.4	生徒の個性を育ませながら、技術力を向上させたい。中学からの横断的な学びとして道具の扱い方、絵画技法といった基礎力は定着させたい。
	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働き等について考え、発想や構想を練ったり、美術文化に対する見方、感じ方を深めることができる。	4.1	4.3	鑑賞の授業の中で作品の背景や時代について考えることをできるようにする。また、作品の時代背景から当時どのような美術様式だったのかといった知識を身に付けさせる。
	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとすることができる。	4.2	4.2	造形表現は黙々と制作できているので継続する。道具の扱い方が乱雑であるため、片付けの指導と道具の使い方の指導を徹底する。
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	4.4	4.4	学習ノートを中心に学習し、動画教材を活用しながら知識の定着を図る。また、調理実習については事前学習を厚く行うことにより確かな技術の定着を図る。
	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	4.5	4.5	夏休みや冬休みの課題を通して、授業や実習で学んだことを家庭で実践し、レポート作成をさせるサイクルは継続する。未提出の生徒を少なくするよう、より丁寧な事前指導を実施する。
	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	4.5	4.4	授業や実習を通して学んだ内容について自分の人生や家族・地域社会との繋がりを考えさせる機会を充実させていく。
保体	生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や体力の向上を図ることができる。	4.4	4.4	学んだ知識や技能を活用し、自己や仲間と合った運動習慣が確立できるようにするとともに、生涯にわたって運動を継続することができるようにする。
	自他の運動の課題をもち、自ら考え活動を工夫し、その課題を解決することを通して運動の楽しさや喜びを味わうことができる。	4.5	4.3	課題に対する意識付けをし、主体的な活動の機会を増やす。
	社会生活に必要な態度の確立と定着を図り、自他の健康を適切に管理し、改善していくことができる。	4.4	4.3	自他の健康を意識して考え、改善できる資質・能力を養う。
情報	進化する情報技術やサービスに対応できるようアンテナを高くタイムリーな話題を取り上げ、正しい知識・技能を身に付けている。	3.8	4.3	WordやExcelなどのソフトを活用し、文書作成方法やデータのまとめ方などを学ばせる。
	生徒がより主体的に取り組めるよう生徒が興味を示す内容を題材として扱い、情報技術の効果的な活用ができる力を身に付けている。	3.8	4.4	SNSを題材にし、著作権や肖像権について考えさせる。また正しい情報と誤った情報を考えさせる機会を作る。
	様々な情報技術を習得する中で、情報社会へ主体的に参画させる態度を身に付けている。	3.8	4.3	情報モラルやルールを意識し、正しく安全に情報を扱う意識を身に付けさせる。
産業社会と人間	自己の能力や適性を理解し、様々な課題に対して、解決に向け処理することができる。多様な職業観・勤労観を理解することができる。	4.6	4.6	職業人インタビューや職業に関する探究への取り組みとそれらを相互評価するなかで、自己の考え方や職業観等を深められるようにする。
	将来の進路実現に向けて、的確に判断し、表現できるようになる。夢を叶えるために積極的に取り組むことができる。	4.4	4.7	社会の事柄に日々関心をもって生活し、自己の進路選択につなげる。また、グループ発表の機会を通して多様な考え方を学び、自己の進路実現に向けて、どのように行動するかを考えさせる。
	他者を理解・尊重し、自己の考えを述べ、協働し物事を成し遂げることができる。心身ともにたくましく、豊かな人間性を育んでいる。	4.4	4.6	職業人インタビューや総合学科発表会に主体的に取り組ませ、他者と協働し物事を成し遂げさせる。それらを通して社会に貢献する意欲や態度の育成を図る。

